

カイコに学ぶ

秋山 幸也

※相模原市立博物館学芸員



その 10

カイコを知ろう

⑦ クワのはなし



左がヒメコウゾ右がクワ

※このように同じような場所に生えていることが多い。

1 クワにもたくさんの品種がある

カイコが食べるクワ（桑）は、日本にもともと生えている木です。野山の陽当たりの良い場所などに生えている野生のクワは、ヤマグワという種類です。中国大陸のクワはマグワという別の種類ですが、ヤマグワもマグワも、どちらもカイコは区別なく食べます。カイコと同じように、クワも、マグワやヤマグワをかけ合わせたりして、大きな葉をつけるものや寒さに強いものなどに改良されてきました。今、畑に植えられているクワの木のお多くは、こうしてつくられたクワの改良品種です。クワと同じなかまのクワ科の植物には、果実が甘くて食用になるイチジクや、古くから和紙の原料となってきたコウゾなどの木、葉だけを見るとクワにそっくりなクワクサなどの草があります。クワ以外のクワ科の植物は、カイコはかじって少し食べますが、育ちが悪くなりますし、イチジクの葉にはカイコにとって毒の成分がふくまれているので、あげてはいけません。



ヤマグワの葉



桑畑のクワ

クワの実



クワの雄花



クワの雌花



2 クワの実

童謡「赤とんぼ」にも歌われるクワの実は、初夏に実るとても甘い果実です。養蚕のために畑に植えられたクワの木は、葉をとりやすいように低く整えられているので、クワの実も子どもが手の届くところにたくさんなっていたのでしょ。養蚕がまだ盛んだったころに子ども時代を送った60歳台以上の人はよく、遊びながらクワの実をつんでその場で食べ、服を紫色の果汁で染めて家の人に怒られた、という思い出を話してくれます。

クワの実がなるということは、その前に花が咲いているはずですが、クワの花の記憶はあまりないかもしれません。実と同じような形をした緑色で、花びらが無いため、これが花?とってしまうでしょう。そしてクワの木には、オスの木とメスの木があります。実がなるのはメスの木だけで、しかも、近くにオスの木があって風で花粉が運ばれないと、うまく熟してくれません。

3 鳥とクワの実

人間もクワの実が大好きですが、もちろん、鳥などの動物も大好きです。熟したクワの実を、ムクドリやヒヨドリ、カラスやスズメなど、たくさんの鳥たちが、夜になるとタヌキやハクビシンが食べに訪れます。甘い果肉の中に入っているゴマのようなツブツブがタネ（種子）です。多くの動物はタネまで消化しないので、フンにまじって地面に落とされます。

学校のフェンスの近くなどに、クワが勝手に生えているのをよく見ることがあります。これは、近くのクワの実を食べた鳥たちが、フェンスにとまっているときにフンをした証拠かもしれませんね。